

木
下

是ハ新は國あり乃々何なるに
 恒長仕老ゆきいふ所ありの
 市に出る酒を賣る所より何と
 志しひるき男が来る酒をのみ
 がつあそは酒宴を賑——い
 何とや〜不審にふる目も
 またわな〜いつ成老うと

名を尋るゝやとある
 もと乃秋
 をもね虫(こ)るる
 小もや友哉
 せやむ 燦の風更りまゝに
 も月乃ぢの寒まぬ風と袖少神
 續々市人の情ひおほさ乃也乃
 原糸(こ)露もぬりみとわさ(こ)は
 行やとく 魂の代衣わも出て

あくの市路小虫(こ)なわ 老里
 なな 程ちうきこや恒江乃浦
 けふい 恒風も明やきう乃
 娘のなづ 松もひるあゝ奥は
 波ぎゝんて 静なまうふは市
 人の事(こ)に おもおほふ人も
 せくあ人乃く 原身面白屋く

つゝへきくも樂天、酒初夢を
心より琴酒のなぐり初夢を
市屋の小樽をけりてさうはなれ
なうそくわく人なまぢめ
たわづま人と酒をめでたう
お痛ハきくうは市にあつて
四つ子もあはひもさうて

情もぬ人乃心なるあつて
人いめせく小樽酒をめで
もさうも人または人乃
ふいふ酒やきふいふわ
酒をたへて遊樂狂舞乃知哥を
初人のうたを聞くとあつて
もやめぬ人望しきひろや

上五

上五

がよあけりやと那ぬ里うとや

かゝの事書るはとも月をも

見すそ新ふ方よ 何とも別

何とそりこの酒なと皮みす清

うきふふあふも華のもとに

いんるをわひるゝ冬

あふにふあと化里うわ 梅乃

あふ日族をいゝめを是あ乃

風ともい色里 何方秋の風

あふくあふみえをききと薬と

きくの事流るゝ帰る母る哉

まの事いそや清酒をあひとす

たふひをあゝともくおお乃

ともになあ衣の枝よりをたる

月影のうしろをの影りとて
 ぎにすゝゑんさも猶まきわな
 子午の候をもにや松虫
 音もほふしうきまきくを
 いはまきもかりぬあき
 買はるる市巻ぬなまき

早詞

明子中
喉々
孔
玄
藥乃
可
成
子

「まはし」漢者にとりて成りしを
 後人其のなりを謂ふなり

七言

入世以遠人語得之也

7

中
以
爲
一
之
有
物
後
之

三丁抄

吾はあゝ乃松原を阿保ひと

一人が毎日おわわ

松虫乃有面白く
之

一人能友人は虫乃音をきこひ
ゆあにひか一人のとも居る
ひききききききききききき
能よんえなく思ひきりて人
ば老る語も似てきりて人
志なき一はともきりて人
ききききききききききき

下月
とて泣かききききききき
其候中ふ理本の人ききき
ききききききききききき
音にともをききききききき
ききききききききききき
志のひきききききききき
ききききききききききき

なまふあとの七尋爰小玉更うわ
づきやう襖まうなわだち
はるまふる市人のひまうきに
まさきあてあふううるぬま
くわくやきあぬいせ
あもがきほけう強
はなと乃友人のぬ襖を志り

上草紙

とめ新人折衣娘の音松虫も
あもがきほけあをやまきあなるむ
いもんかなふ虫襖る乃我をまき
強うはけはかかぬ云葉が
あひ音もづゝ志のふもを皮
まううちう言の葉ゆもり
らめ笑ひ思ひ物なわあさ

上草紙

上草紙

歌も成秋子野子 人ま所奥の
 釋けるわ 入るおまふつ
 吊りむとおかーめはの人
 ぎ歌や是うは乃友をせつら
 ね奥れ音は付ひるの海里々わ
 ちのふは遠きう人里々わ
 松風を世き此原乃づくそこの

乃と祿乃とこもはりて法を
 明ててもしひかゝば法とふ
 ち類ふく
 屋ふ枝霜りかゝむ
 きけん岡浮のお美にりる心
 が残郊原に朽残る魄
 耳もつわ娘を吊ひ斬ふ老翁

[illegible]

里もをさあ人乃市人到る
めしぬ人もいふも我も
上高
おつゝ位一何一旅波人く
蓮火たて屋も市屋がも替らぬ
うわ城也ふろ儀まの建えぬ
なりーありけりー表心や

五の連ををるも鹿をみ
 いふ一海小ぬる波乃がもはる
 ちとふり阿も実摘が貴
 なとや如おの花をぬきて
 あひとも方はうりたはは苑
 魯にきこりは富一時よかへ海
 花もはるる遊樂の致遊月乃

な小きうりけうり家の山也や
 奴乃聖のる葉にすたと出とも
 ぎけんちう海客ともなうはる
 一樹のりき乃屋とりわも地生流
 孫とゆ物を一河の流ぬる志海
 其心流るめや奥山乃深谷に
 志し流きくみ水なめともく

もけきし流水のきいをすけ
ききもあさるはあわづ飛を
廬山乃いしへ虎溪をきぬ
すろのとのぞれひ方め城
破るも心きをあきりぬ
思ひ乃露れか水乃ひをなれ
ゆきさともうけあうけあうけ

いしへ廬乃世もたけ心きえ
たけあ友人が数し横善れ解き
あきしきくひあみちとりや
どハ濁世乃人る殊子つこがふ
あふしきくはもろけりや
ききをたけへ竹葉乃世いし那
えききしは我獨りめもきえ

茶木之那お茶をわだく松虫落
獨寝まとも城もち碓をりて
茶の那を遊りて
雲をめくくし糸の袖面白や
手短小のく虫の音乃
を伝音乃
高
きわんをもちあまけりて
まわんをもちあまけりて

了ぬきわくす松虫さく乃免
る中にかつお世お松虫の種
王世く王むく
静めいくたわ
乃種もあふまふおあふ方も
成ぬ
油を下能おまふかのほおふ

[illegible]

